

令和2年度沖縄県全島緑化県民運動ポスター原画コンクール審査講評

【審査員長 総評】

仲里 安広 審査委員 (県立 那覇高等学校 美術教諭)

小学生の部では、それぞれ学校で熱心に取り組んだように見え、力作も多かったように感じました。高学年と低学年の差はあったと思いますが、それぞれ緑に対する思いとか、楽しみとかが伝わってきた作品が多かったように思います。

中学生の部では、技術的なレベルが高くなり意図も分かりやすいなど、審査としては選びやすく感じました。表現したいことを描くことも出来ていました。

今後も、緑化のポスター原画コンクールを通し環境への意識を高めていってくれるように願います。(高校生の講評は、2ページ目の下段の内容となります。)

最後に特別支援学校は、個性的で絵が大好きなところが伝わり、緑のテーマで書いていたところも理解できる作品でした。

【小学校の部 講評】

大城 直也 審査委員 (南風原町立 翔南小学校 教頭)

「つなげよう 緑の豊かさ 全島に」のテーマのもとたくさんの作品応募があり、わたしたちを取り巻く環境の中に緑と花とおきなわを感じさせる作品と関わることができうれしくなります。

最優秀賞に選ばれた宮古島市立西辺小学校 砂川 うたさんの作品は、ガジュマルの下で新しい芽を世話する児童を生き活きと描き、その周りに色とりどりの花が咲き、蝶が舞う様子が描かれています。

ガジュマルの力強さと児童の一生懸命世話をする様子から自然を愛する心情が伝わってきます。

優秀賞を受賞した糸満市立兼城小学校 波多江 美月さんの作品は、大きなガジュマルの木が中心に児童が手を広げガジュマルを見上げています。ガジュマルの木からのそよ風が二人を笑顔にし、木と手を取り合い共存しているように見えます。

同じく、優秀賞を受賞した名護市立安和小学校 宮城 遥奈さんの作品は、木の枝を人の指に例えて描きながら、これまでの世話の様子を描いています。植物の世話を通して喜怒哀楽やすべての生き物の命はどれも大事であるという願いが伝わってきます。

【中学校の部 講評】

大川 晃 審査委員 (西原町立 西原中学校 美術教諭)

この度、令和2年度「全島緑化県民運動ポスター原画コンクール」へ入選されたみなさんおめでとうございます。

今年度はコロナウイルス感染症拡大の影響で、授業数が少ない中、作品と真摯に向き合い、丁寧に取り組んでいる様子がかげえました。

審査の基準としては、応募テーマである、「つなげよう 緑の豊かさ 全島に」とマッチした図案であることや全島緑化県民運動の普及ポスターとしてふさわしい作品であるかなど、一点一点慎重に審査をさせていただきました。どの作品も授業で学んだ表現技法の活用や画面構成、混色など多くの工夫が見られました。

自然と人との関係性や心のつながり、深い愛情から自然を大切にしようとする気持ちがあふれており、画面からひしひしと伝わってきました。その中でも上位作品は、描写の技術や表現の意図が明確で、時間をかけて丁寧に制作する姿が想像でき、好感がもてました。

このコンクールを通してみなさんが身近な自然や動植物をよく観察し、丁寧に描くことで、自然を愛する気持ちがさらに深まったと思います。こうして選ばれた作品が多くの人々の目に触れることで人と自然がよりよく共生できる社会づくりが進むことを願っています。

【高等学校の部 講評】

仲里 安広 審査委員 (県立 那覇高等学校 美術教諭)

今年度の高等学校部門は出品数が減ったものの、特別支援高等部からの出品があり、エネルギーで見応えのある作品が多数ありました。緑化へのそれぞれの思いが込められた作品は、明るい未来を感じさせるものでした。

高等学校部門で最優秀賞に輝いた宮坂くるみさんの作品は、単純な構図で分かりやすく、瑞々しくも力強い表現で緑化への思いがダイレクトに伝わる力作でした。

優秀賞を受賞した知花美紗さんの作品は、対象への細やかな観察力と高い技術が審査員を唸らせました。絵としての完成度は非常に高かったのですが、緑化ポスターとしてのインパクトの点で評価が分かれ次点となりました。

同じく優秀賞の福島あかりさんの作品は、柔らかく包み込むような緑の表現が素晴らしかったです。

特別支援の部では魂の鼓動を感じさせる個性的な作品が数多く出品され、甲乙つけがたい魅力的な作品群でした。その中でも最優秀賞に輝いた晃矢さんの作品は虹色に彩られた華やかさと、生命力あふれる個々の緑の表現が審査員の目を捉えました。

また、優秀賞を受賞した末吉由弥さんの作品は、ピンクのコスモスと緑とのコントラストが強く印象深い作品で、花の強さが際立ちました。

今後とも緑化意識の高揚を願うと共に、次回も感性豊かで創造力溢れる力作を期待しています。